

## 知床五湖の利用のあり方協議会（第4回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2. 日時：平成21年10月14日 13:30～17:40

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 配布資料

- 資料1-1 利用調整地区制度の概要
- 資料1-2 知床五湖利用調整地区の区域の取り方について
- 資料1-3 知床五湖利用調整地区の立ち入りについて
- 資料1-4 利用調整地区の立ち入り認定手続きについて
- 資料1-5 ヒグマ活動期、植生保護期による立ち入り認定手続きの方法
- 資料1-6 知床五湖地区における利用適正化計画の策定について
- 資料1-7 知床五湖の利用のあり方協議会 設置要領（案）
- 資料2-1 ヒグマ活動期のヒグマ対処法引率者の検討について
- 資料2-2 検討部会の設置と検討事項、スケジュールについて
- 資料3-1 受付・レクチャー施設、休憩施設の整備について
- 資料3-2 受付・レクチャー施設と休憩施設の配置、間取り等
- 資料3-3 受付・レクチャー施設と休憩施設整備スケジュール
- 資料3-4 高架木道の接続部の構造について
- 資料3-5 高架木道の整備スケジュールについて
- 資料4-1 全体の作業スケジュール
- 資料4-2 平成22年度の対応について

## 5. 議事概要：

### (1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

第3回の協議会のご意見を踏まえて、資料を作成したので協議願いたい。

### (2) 議題1. 利用調整地区の導入と利用にあたっての手続き等について

**環境省：**資料1-1～1-7に基づき、「利用調整地区制度」に関して説明。

**ウトロ地域協議会：**資料1-3、1-5にあるヒグマ対処法引率者、対策法引率者とあるが、どちらが正しいのか。

**環境省：**修正もれであり、あくまで仮称だが、対処法引率者のほうが正しい。

**ガイド協議会：**資料1-5 植生保護期について、五湖では通常8時半にホテルに迎えに行き、9時頃に到着する。そのときにすでに一杯で待ち時間が発生すると、お客さんに迷惑をかけることになる。待ち時間が長くなると、観光船にも乗れないということにもなる。できれば予約ができるようなシステムが一番良い。

**環境省：**事務局としては植生保護期は予約処理が難しいと考えている。予約ができるようにするには高速回線を用いた事務処理方法を考える必要があるが、現状で通信回線は存在せず初年度は予約システムが構築できない。将来的な導入について検討させていただきたい。

**しれとこウトロフォーラム 21：**事前予約にしないと大混乱を招くのでは。現地に行かないと混雑状況等が分からないというのは不親切である。

**環境省：**基本的には地上歩道ではなく高架木道の利用を主体として考えている。五湖に通信手段が無いため連絡方法の検討が必要だが、五湖の現在の状況に関してインターネットで情報提供していくことや、携帯電話などにより混雑状況を配信するなど、事前に分かっていただけのようにすることが必要と考えている。

**ガイド協議会：**地上歩道のゲート部での混雑の課題のほかに、現地にたどり着くまでの交通の問題についても別途検討が必要。

**しれとこウトロフォーラム 21：**事前広報といっても、すべての人がわかっているわけではない。地上部が混雑している時に、高架木道を周ってもらおうというやり方もあるかと思うが、地上を利用する人と、高架を利用する人ではカテゴリーが違うと思う。また次の目的地にも確実にに行けるようにすることも必要であり、予約システムはやはり必要ではないか。

**ガイド協議会：**幌別などに設置してある道路の電光掲示板で混雑などの案内はできないのか。

**環境省：**マイカー規制では、開発局に五湖駐車場の混雑の発生状況について、ファックスで連絡し表示をお願いしている。ただ、この利用調整の情報について、どこまで細かく表示できるかは検討が必要である。

**ガイド協議会：**センターを曲がると、五湖の駐車場まで行くしかなく、五湖の駐車場の待

ち時間などを梶別で分かるようにすることが必要。

**環境省**：この利用調整のシステムで、今より駐車場の滞在時間が延びることも想定される。

最新の五湖の情報を何らかの方法でリアルタイムで出している方法を考えていきたい。

**ウトロ地域協議会**：高架木道が長くなり滞在時間が延びている状況にある。さらに高架木道が延長され滞在時間が延びれば、システムが機能しないことにもなり、交通の問題を解決する必要がある。

**環境省**：植生保護期に予約システムを導入した場合に、道路で渋滞が発生した場合に、予約時間までに到着できなくなるという可能性もあり、かえってお客さんに対して不満を抱かせてしまうことになるとも考えている。事前予約を行うにあたっては、そういった問題も生じる。

**ウトロ地域協議会**：ヒグマ活動期についても同様の課題は発生するのではないかと考えている。交通の問題はセットで考えるべき。

**環境省**：高架木道を延長した場合の利用時間は、40～50分と考えられ、今の1湖2湖利用と比べ、大きくは変わらないと考えている。植生保護期に関しては、5～1湖をめぐる人が増えると想定されるため、滞在時間が延びるのではないかと考えている。

**ウトロ自治会**：資料1-3、1-5に関して、ヒグマ活動期は引率者の同行が義務付けられるとあり、植生保護期にも代表者の注意事項の遵守義務などの記載があるが、これは利用調整地区制度の中で義務付けるということか。

**環境省**：法改正でできた代表者の立ち入り認定制度は、各個人の受付を省略するかわりに、団体の代表の方に、引率する利用者に対して注意事項を遵守させる責任を負ってもらうという制度である。代表者の範囲については検討中である。

**知床斜里町観光協会**：資料1-3の管理体制において、ヒグマに対する管理はどうなるのか。植生保護期の地上歩道の閉鎖頻度にも関係する。新たな要員を配置するのか。

**環境省**：資料1-3の管理体制にはヒグマの管理は含まれていない。これとは別途に実施する必要がある。ヒグマ活動期に関しては、ヒグマにも対応できる全体を指揮する方が1名受付施設に常駐することを考えている。植生保護期に関しては、今と同様に梶別から駆けつけるということになる。

**知床エコツーリズム推進協議会**：利用できなくなった場合、中止になった場合、手数料は返還されないのか。

**環境省**：大台ヶ原の事例では、すでに認定事務は終了しているということで、手数料は返還しないことになっている。利用者に不満は残ると思う。

**知床エコツーリズム推進協議会**：大台ヶ原と事情が異なると思うので、検討をお願いしたい。

**環境省**：手数料という形になっており、どこまで対応できるのかを次回までに検討したい。

**知床エコツーリズム推進協議会**：資料1-3について、8グループという枠は、ルールや内容によって変わってくると考えられるが、今後部会で検討されるのか。根拠がない数字では決められず、議論が必要。

**環境省**：8グループというのは無線での対応ができるグループ数と認識している。引率者の資格や、交通の課題などによっては、今後検討をしたいと思っているが、1年目に関してはこの数字で行かせていただきたい。運用を踏まえ、翌年以降の見直しをしていくことはできると考えている。

**知床エコツーリズム推進協議会**：実験を経て、無線での対応は難しいという話になっており議論をする必要がある。

**環境省**：具体的にはグループ数を増やすということか。

**知床エコツーリズム推進協議会**：グループが多い、少ないということではなく、内容と引率者のレベルによって変わってくる。

**斜里町**：今までの議論で、8グループがやり方によっては10グループが可能かもしれないという話をしてきたが、クマが実際に目撃される時期に利用するということや、初めて実施するということから、グループ数を極端に増やすことはできないと考えている。微調整はありうるということだと思う。

**知床財団**：実験の際、8グループで試し、10グループでもいけるという話だと思うが、実際にクマが出て、避難活動を実施したわけではなく、10グループにする根拠にも乏しい。1年目としては、この数で運用したいということだと思う。

**知床エコツーリズム推進協議会**：決定なのか、議論をしていくのかを知りたい。

**環境省**：初年度は基本的には8グループとしたい。それ以降は運用状況をみて検討を行いたい。

**知床斜里町観光協会**：5月の開始日について、初年度の結果を踏まえ見直しとあるが、開始日だけが見直しの対象なのか。

**環境省**：それだけでなく、モニタリングにより課題点を把握しつつ、微修整を重ねて全体をより良いものにしていくことを考えている。

**知床エコツーリズム推進協議会**：レクチャー内容は決まっているのか。

**環境省**：映像を見ていただき、係員が口頭で簡単に注意事項を喚起するようなことを考えている。レクチャーの中身については、今後ご意見いただきたいと思う。

**ウトロ地域協議会**：レクチャーは毎回受けなければならないのか。年間パスポートみたいなものは考えていないのか。

**環境省**：1年間レクチャー内容が同じであれば、1度受ければよいと思うが、季節で変わった場合、都度受けってもらうことになる。レクチャーのやり方については、検討中である。ただし、手数料は認定事務の手数料であり、入る度に支払いいただくことになる。

**ガイド協議会**：事務手数料の金額の見込みはあるのか。その事務経費を提示いただければと思う。

**環境省**：金額を決める際は、積算根拠をお示しすることになるが、認定事務が細かく決まった段階になる。金額については、法改正により上限があがる予定だが、五湖では利用者が多いため、1000円を超えることはないと考えている。

**知床斜里町観光協会**：8 グループ、10 名となっているが、例えば、1 グループの予約が 2 名程度となった場合、どのような対応を行うのか。

**環境省**：予定人数より少ない場合、その残り分を予約で募るのか、当日募集するのか、いろいろ手法はあるが、上手くできるスマートな予約システムを構築したい。

**知床温泉旅館協同組合**：2 人の引率者が 1 つのグループに入ることはできるか。

**環境省**：問題はないと思うが、中で分かれてしまうのは混乱を招くため、同一行動をしてもらうことになる。その場合、ヒグマ対処法認定者は 2 名となるが、いずれかの方が代表者認定を受けてもらえばよい。そのあたりはガイド業者間で調整は可能。

**ウトロ地域協議会**：10 名と限定すると、11 名、12 名の団体の場合対応できないため、10 名程度ということにしたほうが良い。

**環境省**：その点は引率者のスキルにもより、検討させていただきたい。また、法令の告示として出されるものであり、そのようなあいまいな表現ができるのか確認が必要である。その他にも、子供の取り扱いをどうするのかということもあり、今後検討をしたい。

**しれとこフォーラム 2 1**：子供の取り扱いについて、基本はヒグマの安全対策であり、安全回避できるように、厳しいかもしれないが幼児は遠慮してもらうなど検討が必要。

**知床財団**：以前ガイドさんとお話をした際も、引率を行う際に引率者はお客さんと契約を結ぶわけだが、小学生以上の年齢など一定の条件を設けたほうが良いという話があった。法的な規制が難しければ、引率者が条件をつけて対応することができる。

**しれとこフォーラム 2 1**：シルバーウィークで非常に混雑したが、駐車場の利用者のうち高架利用、地上利用の割合、また高架木道の滞留時間などは分かるか。また、個人利用者全員が植生保護期に地上歩道を歩いた場合、どのくらいの回転率になるのか。そのような点を踏まえた規制の人数設定になっているのか。また、利用した人のデータは残るが、利用できなかった人のデータが残らないのが問題。

**環境省**：いまの人数設定は駐車場から算定したものではなく、過去の利用実態から植生等への影響が少ないと思われる人数設定としている。この人数設定については何年か運用して見直しの対象となってくると考えている。アクセスの問題については、利用者の満足度にかかわるものであり、先ほど話したような情報提供を充実させていきたいと考えている。

**愛甲准教授**：6 月、8 月に利用に関する調査を実施している。6 月には駐車場の利用者にカードを配布し、どこを利用したかを書いてもらっているので、高架、地上の利用者、両方の利用者の割合などが推測できる。8 月については自動車利用の集計と、高架木道の利用時間を調査しており、シルバーウィークの実態について精度は落ちるが、推測はできなくはない。高架木道の延長に伴う滞在時間の変化については、1 日だけのデータになるが、昨年度の 8 月のデータと今年度のデータを比較することは可能。この制度の運用に間に合うようなデータはすぐにはできないと思うが、継続してモニタリングを行っていくことが必要と考えている。

**環境省**：利用の人数についてはいままで議論を行って決めてきた数字であり、とりあえずそれで進めつつも、先生方の研究結果を踏まえながら、対応を考えていきたい。

**しれとこフォーラム 2 1**：開発局がオシンコシンの駐車場の利用状況について、峰浜でモニターで伝えるという取り組みをしていたので、そういうことも一緒にあわせればデータが取れるのではないか。

**しれとこフォーラム 2 1**：部会はそういったもろもろのことを検討するのか。交通の問題は重要な課題であり、検討を進める必要がある。

**環境省**：部会は引率者に関する専門部会であり、交通問題はこの協議会の場で検討することになる。当面はシャトルバスでの乗り換え推奨で対応をしていきたいと考えている。それで無理な場合は別の手段を検討する必要がある。

**しれとこフォーラム 2 1**：交通の検討の場はマイカー規制協議会となっており、見えない部分がある。この場でも議論する場がほしい。

**ガイド協議会**：グループの人数設定、駐車場の利用等に関して、参加できなかった人、利用できなかった人の意見が無視されており、不評につながる恐れがある。

**環境省**：五湖にたどり着けなかった人が増えるのではという懸念に対して、どのように手当てをするのかということだが、五湖の魅力を失わせないためにも重要である。無制限に五湖に来てもらえるようにするという事ではないと考えており、利用するか判断できる情報提供を行っていくことが大事だと考えている。

**しれとこフォーラム 2 1**：1000 円の利用料はまだ検討事項か。金額については利用者が納得するような根拠が必要である。

**環境省**：最大 1000 円ということであり、今後管理方法に応じて検討する。

**知床斜里町観光協会**：料金や、期間などが Fix したときに変えるのが大変になるのではということ懸念している。

**環境省**：官報告示は重たいものだが、現場レベルで細かい修正に対応できるような仕組みにしていきたいと考えている。

### (3) 議題 2. ヒグマ活動期の引率者について

**環境省**：資料 2-1「ヒグマ活動期のヒグマ対処法引率者」に関して説明。

前回結果を踏まえ、ガイドではなくヒグマ対処法引率者（仮称）として統一。

**知床財団**：資料 2-2「検討部会の設置と検討事項、スケジュールについて」に関して説明。

**しれとこフォーラム 2 1**：前回意見にあった引率者の責任についてはどうなったのか。

**環境省**：利用者の代表ということで今回整理されており、前回の管理者としての位置づけよりも負担は少なくなるのではないかと。具体的な疑問点などについては、法律の専門家などにヒアリングは必要となるかもしれない。部会にご参加いただける人は、来週の水曜日くらいまでにご連絡願いたい。

**ウトロ自治会：**ガイドの立場で話す、ガイドの立場が中途半端であると危惧している。  
新たに出てきた団体認定制度ではいろいろと義務が課せられており、またこのシステムによってガイドに課せられる時間の束縛、人員の確保など負担になることが多く、実際には採算が合わない。ガイド業者任せであり、社会保障など身分の保証が必要。また、管理者としての位置づけが利用者と変わったことで、気象やヒグマ出没時の判断などに対して、ガイドの意見がどれだけ取り入れられるのか懸念している。

**環境省：**人員の確保については、予約システムと連動する課題と思われる。ご指摘の多くは部会でつめていかなければならない。

**知床財団：**社会保障などに関して、具体的には、引率者を直接雇用すべきということか。

**ウトロ自治会：**個人的にはそのように思う。この制度を環境省がやるわけだが、その土台が曖昧ではないか。

**ガイド協議会：**これまで意見を言ってきたが、なにも取り入れられず、これはもともと出来上がった制度であり、財団の責任で考えてもらえばよい。個人的に部会の参加は断っている。

**環境省：**なかなか制度上取り入れられない部分もあるが、できるだけ実情に合わせた制度にしていく必要があり、部会の参加にかかわらず今後ともご協力を願いたい。

**知床エコツーリズム推進協議会：**今回、管理者という立場から、利用者という立場に変更したことが強調されている。愛甲先生にお聞きしたいが、引率者の立場に関して、管理者、利用者の立場の差で事故時の責任問題に関して何らかの差は生じるか。

**愛甲准教授：**その問題が何が原因で起きたのかということになる。引率自体に問題があったのか、制度自体に問題があったのか、もし制度に少しでも欠陥があった場合に、管理者の一員であれば責任がかかってくることになる。判断は難しいものになると思われる。

**しれとこフォーラム 21：**住民主導で管理システムを構築してきたわけではなく、官の方で利用調整地区ということで、いろいろと決めてきた経過がある。その中で、引率者に責任が生じるということになってきた。ヒグマがいる中でも利用できるという謳い文句であるものの、責任が引率者に移行してしまったら、できないということになれば、当初考えていた少数利用でよりよい環境で楽しんでもらえるということが根本から崩れる。やってくれる引率者がいて成り立つものであり、課題をクリアしていくことが必要。

**知床エコツーリズム推進協議会：**引率者を管理者として位置づけるのか、利用者として位置づけるのか、どちらが良いのか一度議論が必要である。

**ウトロ地域協議会：**ガイド協議会の中でこの中身はすり合わせされていないのか。ガイドがやらないといえ、運用できないわけであり部会などでよくつめてもらいたい。

**環境省：**実験のルールの部分などはこれまで協議をしてきたが、今回の資料にある団体認定制度や利用者としての位置づけ等については、これまでの協議を踏まえてこちらで新たに作成したものであり、ガイド協議会と事前に打ち合わせしたものではない。新たに提案したその点を協議したほうが良いというご指摘であり、十分議論をして進めていきたい。

**ウトロ自治会：**引率者とヒグマの管理者、行政が一体となって考えることは今までにないことであり、ぜひ活かしていきたい。管理の立場が、引率者に被さっている状況であり、その立場など曖昧な部分をクリアにしていきたい。

**知床財団：実験等での意見では、引率者が管理者という立場であれば、責任が生じるので**どうなのかということがあり、今回利用者という立場になってきたのだと思う。そうでないほうが良いのか、それとももう少しクリアになれば良いということなのか。

**ガイド協議会：**利用者の立場ということは、導入実験に関して言えば、クリアになったので良いと思う。今回は研修があり、試験があつて認定したわけであるから、責任が管理者にあるのは明らかである。言われたことを守らない場合は引率者に責任が生じるが、言われたとおりにやった引率者が事故にあった場合は、明らかに認定者の責任である。

**しれとこフォーラム 21：**引率者の責任、管理者の責任というよりも、事故が起こったときにきちんと対応できるシステムになっていることが必要。

**ガイド協議会：**客観的に見れば、事故が起こった場合には引率者に責任を生じる。そもそも五湖の管理者は誰なのか。

**網走支庁：**地元の要望で歩道を設置しているので、公物管理者は北海道となっている。事故が起きた場合の対応は、ケースバイケースであり、第一の窓口は道庁になる。

**ガイド協議会：**実験の際に天候の条件で閉鎖した判断は北海道がしたのか。

**網走支庁：**木道開閉の判断は、現場にいる自然公園財団と行っており、またその判断については、平成16年に地元と協議させていただいたルールに基づいて実施している。

もし引率者が運営者側として担当していただく場合に、その立場が囑託なのか、ボランティアなのか等複雑になり、責任関係が曖昧になってしまう。今回のように利用者となれば、非常に明快な責任関係になる。

**ガイド協議会：**責任分担の事例が示されればわかりやすい。

**環境省：**今度、管理者から利用者という立場になって何が変わるのかをお示ししたい。正式な部会を開催する前にプレ部会的なものを開催したい。出来るだけ現場の方に参加いただき、良いものをつくっていきたいと思っているので、ご協力いただければと思う。

**ガイド協議会：**清里、網走などにもガイドはおり、検討部会について枠の制限はせずに広く呼びかけたほうが良い。

**環境省：**今年の春の実験結果も踏まえてと考えており、その実験に参加された方々を中心に検討いただき、部会の意見がまとまった段階でそういった周辺地域の方々にもご意見を伺うようにしたい。

#### (4) 議題 3. 施設の整備計画について

**環境省：**資料 3-1～3-5 に基づき「受付・レクチャー施設、休憩施設整備」「高架木道整備」に関して説明。



**知床斜里町観光協会：**トイレに関して、現状ではユートピアがシャッターの開け閉め、電気の消灯などを行っている。整備の際、きちんとそのような対応ができる人員を配置できるのか。高架木道は開いている状態であり6時や6時半といった時間までの対応が必要になる。また発電機の設置に関して、施設の静粛性の確保などから、別棟とし、また環境配慮の面からも1つにまとめるほうが良い。安全対策面で、駐車場と上の段差の解消や、春先、秋季の対応のため、太陽光を使った街灯の設置も検討願いたい。

**環境省：**トイレに関してはサービスが落ちることのないように考えたい。発電機については検討中であり、一箇所にまとめることが良いと考えている。駐車場の段差については、施設側の段差については解消をしていきたい。街灯については検討させていただきたい。

**ユートピア知床：**施設整備に関して、9月が営業の最盛期となっており、整備スケジュールに配慮願いたい。できれば10月からに変更できないか。

**環境省：**利用のコントロールは5月10日からとなっており、それまでに受付・レクチャー施設の整備は必要。準備等もあり、遅くとも3月末までには完成させる必要がある。

**ユートピア知床：**工期は短くならないか。

**環境省：**ここで建物を建てる場合、雪が降る前に屋根を架ける必要があり、開始を10月に遅らせるのは難しい。若干の配慮はできると思うが、2ヶ月、3ヶ月延ばせるということではない。

**ユートピア知床：**仮設のレストハウスを別な場所に建てることは難しいか。

**ユートピア知床：**出来ないということではなく、会社として折れてきたこともあり、接点を見出してほしい。

**環境省：**工事のバックヤードについては、詳細設計をしないと確定しない部分もあり、できるだけ影響を最小限にしたいと考えている。今の段階でお約束できないが、ご要望を聞いておきたい。

**知床温泉旅館協同組合：**駐車場が少ない状況の中で、新たに拡張するという事はないのか。駐車場の段差の解消により、台数が拡張できると考えるが、そういったことは考えていないか。

**環境省：**管理計画の中で、過去一貫して駐車場は拡張しないという方針となっている。ただし今回高架木道の前の広場を確保するため、駐車場がつぶれる部分については、機能を確保するための整備が必要であると考えている。今の段階ではっきりとしたことは言えない。段差の解消による駐車台数の拡張については、検討したが難しいと考えている。

**知床温泉旅館協同組合：**利用調整の実施により滞在時間が延び、駐車場台数が不足することになるのではないか。また、どこに集合させて、このシステムを利用させるかということも検討が必要。現地集合だけでは混乱しないか。

**ウトロ地域協議会：**駐車場の話は毎回出ている問題であり、利用者が増えることが分かっているのに駐車場を増やさないというのは理解できない。

**環境省：**シャトルバスへの振り替えなどでの対応を考えている。

**ウトロ地域協議会：**駐車場、シャトルバス、いずれの対応も必要と考えている。

**環境省**：検討はするが、駐車場を広げることは厳しい。

**ウトロ地域協議会**：五湖だけでなく、公園の内外での利用の連携を検討する場が必要。

**環境省**：国立公園外の話となると環境省だけではできないが、どのような方法があるか調べたい。

**知床温泉旅館協同組合**：施設整備中は地上歩道の利用はできないのか。

**環境省**：入口部を迂回する必要があるが、利用はできる。

**知床温泉旅館協同組合**：資材置き場を駐車場以外に確保することはできないか。

**環境省**：建物のすぐそばに設置する必要があるが、敷地が限られているため、他の場所は難しい。

**知床斜里町観光協会**：問題が生じた場合、将来的に駐車場を整備するということはありえるか。

**環境省**：北海道の施設であり、環境省の直轄事業ができる場所ではないので、現段階ではなんとも言えない。なお施設整備にあわせ外構整備を行うが、22年度に同時に行うことは難しいと考えており、23年度スタート時点では建物だけになる可能性がある。外構工事はおそらく23年の秋になるのではないかと考えている。

**知床温泉旅館協同組合**：レストハウスを今年撤去するのであれば、来年は仮施設による営業になるのか。

**斜里町**：まだ詳細は協議中だが、違った形での営業になる。

**知床温泉旅館協同組合**：場所は駐車場をつぶすことにはならないか。

**斜里町**：仮の施設の規模によるが、今のところ駐車場をつぶすことは考えていない。

**知床エコツーリズム推進協議会**：駐車場については大事な問題であり検討をお願いしたい。前回の協議を踏まえ、トイレが受付施設に取り込まれたことはありがたいと思っている。また先ほども話にあったが、発電機は騒音の問題があり、別棟にしたほうが良い。

**知床エコツーリズム推進協議会**：レクチャーを受ける人だけでなく、高架木道の利用者もおり、女性トイレが若干増えているようだがもう少し増やしても良いのでは。券売機、受付の配置、記帳台については、もう少し検討が必要ではないか。

**環境省**：券売機等については、受付方法も含め検討をしたい。

**しれとこフォーラム21**：高架木道について、強風の影響は心配ないか。

**環境省**：風に対しては問題のない構造と考えている。

**知床温泉旅館協同組合**：町の高架木道の取り扱いはどうなるか。

**斜里町**：前回お話したが、撤去することになっている。

**ガイド協議会**：9月が駐車場半分となるとかなり混乱すると考えられる。23年度のヒグマ活動期の時期を遅らせることはできないか。

**環境省**：繰越の整備予算でもあり、来年度末までの整備をする必要がある。またヒグマ活動期の開始時期をずらすことは難しい。

受付・レクチャー施設の大まかな内容や配置については、この内容で進めさせていただきたい。詳細は、基本設計、実施設計段階で改めて相談させていただきたい。

(5) 議題 4. 全体スケジュールと 22 年度の対応について

環境省：資料 4-1、2 に基づき「全体スケジュール」「22 年度の対応」に関して説明。

ガイド協議会：来年は、9 月 25 日まで連休の週となっており、シャトルバスの運行の検討が必要。

斜里バス：マイカー規制について、内容を理解されている方が少なく、看板を見ても、どこまで自動車で行って、どこからバスが出ているのかということが理解されていない。現場では質問攻めになり運行業務に支障をきたす状況である。大半の方がわからないという状態の中で、現地にスタッフを常駐してもらうなど、周知の方策を検討してもらいたい。旅行業者、宿泊施設への周知も必要。

環境省：丁寧な周知が必要と考えており、方策を検討したい。

知床温泉旅館協同組合：周知広報については非常に重要であり、お客さんは規制をされたという印象を持っており、利用の落ち込みにもつながっている。エージェント対策を含め事前に周知をきちんとしないと混乱を招く。

ガイド協議会：規制ということが広報されがちであり、よりよく利用するための制度だということを広報してもらいたい。

ユートピア知床：もう一度お願いしたいが、施設の 9 月の着工の延期について、大変だと思うが是非ご検討願いたい。

しれとこフォーラム 21：リピーターのお客さんにも規制という印象になっている。先進的な取り組みであることを広報していくような工夫が必要。

ガイド協議会：先ほどのシャトルバスの話で、一番多い苦情は、五湖まで自動車で行った、どうしてカムイワッカへのバスに乗れないのかということである。

知床温泉旅館協同組合：理解されていないことをどうしたらよいか対応を検討する必要がある。

知床財団：ご意見を総合すると、マイカー規制で、自然センターから知床五湖間もシャトルバス限定にしたほうが渋滞対策も周知の上でも効果的だ、ということか。

環境省：広報については、皆さんの協力を得ながら検討を進めていきたい。次回は、計画の骨子をお示ししたい。部会についても早々に打ち合わせの場を設けていきたい。

知床エコツーリズム推進協議会：環境省の年度変わりの人事異動に不安を感じる。ぜひ異動をせずに担当を継続してもらいたい。

6. 閉会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

(以上)

知床五湖利用のあり方協議会(第4回)出席者

名前	所属団体
藤崎 達也	ウトロ自治会
佐藤 正悟	ウトロ地域協議会
松本 鉄男	ウトロ地域協議会
金盛 典夫	自然公園財団
菅原 英人	斜里バス(株)
高木 規好	知床エコツーリズム推進協議会
松田 光輝	知床エコツーリズム推進協議会
佐々木 富美男	知床温泉旅館共同組合
鈴木 完也	知床温泉旅館共同組合
綾野 雄次	知床ガイド協議会
鈴木 謙一	知床ガイド協議会
関口 均	知床ガイド協議会
寺山 元	知床財団
増田 泰	知床財団
上野 洋司	知床斜里町観光協会
喜来 規幸	知床斜里町観光協会
畠山 智隆	知床斜里町観光協会
桑島 繁行	しれとこ・フォーラム21
桜井 あけみ	しれとこ・フォーラム21
吉川 和成	しれとこ・フォーラム21
小野寺 猛	知床民宿協会
上野山 文男	ユートピア知床

事務局

則久 雅司	環境省釧路自然環境事務所
二戸 治	環境省釧路自然環境事務所
中村 仁	環境省ウトロ自然保護官事務所
大館 弘幸	北海道網走支庁生活環境課
槇塚 貴稔	北海道網走支庁生活環境課
百々 典男	斜里町環境保全課
岡田 秀明	斜里町環境保全課

専門家

愛甲 哲也	北海道大学 大学院
-------	-----------